［年度］平成２４年度和歌山県農林水産試験研究成果情報
［成果情報名］浮皮しにくい中生ウンシュウミカン‘きゅうき’の特性

［要約］‘きゅうき’は有田川北岸の有田市宮原町で‘向山温州’の１樹変異個体として発見され、‘向山温州’に比べて浮皮の発生が極めて少ない。また、果実品質は‘向山温州’とほぼ同等であるが、糖度がやや高く減酸がやや早い傾向がある。

［キーワード］中生ウンシュウミカン、１樹変異個体、浮皮
［担当機関名］果樹試験場・栽培部　　［連絡先］0737-52-4320
［専門分野］果樹　　［分類］普及

［背景・ねらい］
既存品種の‘向山温州’は中生ウンシュウミカンの大半を占めるが、秋の高温多雨などの気象条件では浮皮が多発し、果実品質の低下が問題となっている。そこで、現地優良系統の選抜・育成を目的とする「枝変わり探索事業」を実施し、浮皮の発生が少なく果実品質の良い中生ウンシュウミカンを選抜する。

［成果の内容・特徴］
１．‘きゅうき’は‘向山温州’の１樹変異個体である。育成地は有田市宮原町で、有田川北岸の古生層地帯である。
２．浮皮の発生は‘向山温州’に比べて極めて少ない（表１、表２、図２）
３．果実品質は‘向山温州’とほぼ同等であるが（表１）、有田管内の複数園地の高接ぎ樹においては、やや糖度が高く、減酸もやや早い傾向がみられる（図３、図４）。
４．樹体の形質は、新梢長は「短」、節間は「中」、葉身の大きさは「小」で（表２）、樹姿は早生ウンシュウミカンに近い。
５．果形指数は「やや小」であり、‘向山温州’に比べやや丸い果形である（表２、図１）。

［成果の活用面・留意点］
１．既存品種の‘向山温州’に比べ浮皮の発生が少ない品種であるが、園地によっては浮皮が発生する場合があるので、栽培においては育成地の環境条件に近い園地を選ぶ。
２．‘きゅうき’の収穫時期は、浮皮しにくい特徴を活かすためにも、１２月中旬以降の収穫が理想である。
３．隔年結果性が低く、比較的豊産性であることから、着果過多の場合は摘果作業が重要となる。
４．‘きゅうき’は民間の育成品種であるが、県単独事業として登録出願（平成２３年６月２８日公表）にかかる調査をおこなってきた。このため、当面の間苗木等種苗の流通は和歌山県内に限ることとする。

［具体的データ］

表１ ‘きゅうき’（原木）の果実品質

調査日（年/月/日）	品種・系統	横径（mm）	果形指数	果実重（g）	糖度（Brix）	クエン酸（%）	浮皮程度（0～3）
2009/12/3	きゅうき	63.4	120	103	13.4	0.99	0.3
	向山	64.6	132	96	13.2	0.98	2.3
2010/12/1	きゅうき	64.7	121	118	13.5	1.27	0.0
	向山	69.6	136	127	13.6	1.26	0.0
2011/12/1	きゅうき	68.9	133	128	13.5	0.92	0.0
	向山	68.9	135	124	13.7	0.90	0.6
2012/12/4	きゅうき	60.3	125	90	14.2	0.94	0.0
	向山	64.0	138	92	12.7	0.96	0.8

※有田市宮原町
※果形指数＝（横径/縦径×100）
※浮皮程度＝触感により浮皮程度を無（0）、軽（1）、中（2）、甚（3）とした

表２ ‘きゅうき’（原木）の形質および特性

	枝梢の長さ（cm）	節間（cm）	葉身の大きさ（cm2）
きゅうき	（短）11.2	（中）1.8	（小）26.2
向山温州	（中）14.8	（長）2.1	（小）27.2

※2010年特性調査データより

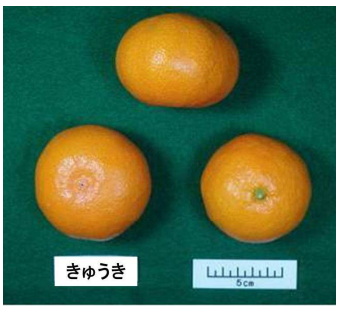

図１ ‘きゅうき’の果実

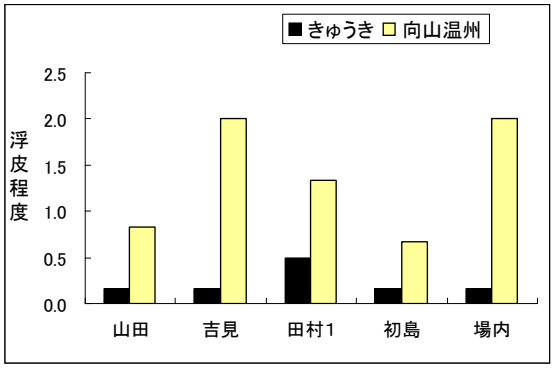

図２ 現地高接ぎ園の浮皮程度（2011）

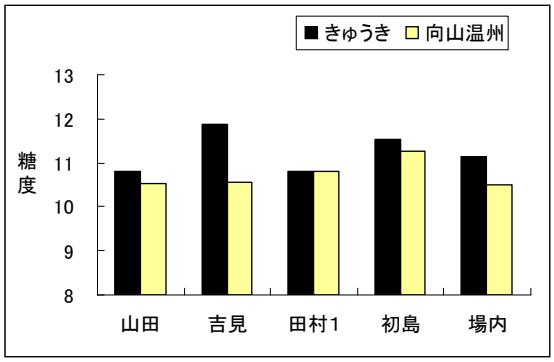

図３ 現地高接ぎ園の糖度（2011）

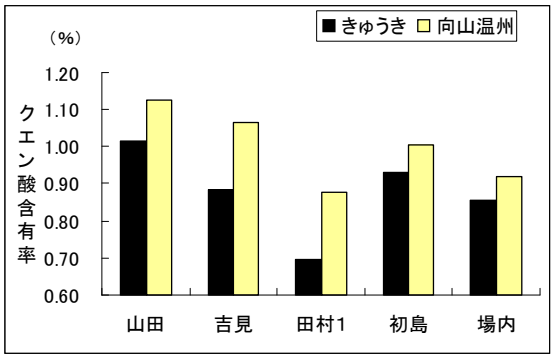

図４ 現地高接ぎ園のｸｴﾝ酸含有率（2011）

［その他］

研究課題名：新品種育成試験

予算区分：県単　　研究期間：平成１６年～

研究担当者：山田芳裕、井口豊、田嶋皓、中地克之、萩平淳也

発表論文等：ウンシュウミカン新品種‘きゅうき’　園芸学研究 第12巻別冊1 2013

ホームページ掲載の可否：可